



2025年10月17日(金)発行



『SUBMARINE～深め、考え、挑む、第58回学校祭の歩み』

教頭 上田雅也

先日、本校の学校祭が無事に終了いたしました。今年度のテーマは「SUBMARINE 深めよう。考えよう。」でした。

「サブマリン」すなわち潜水艦は、普段その姿を外から直接見ることはできませんが、内部では規律や協力を大切にしながら、ひとつの目的に向かって海底を進んでいます。今回の学校祭でも、生徒の皆さんは、まさに潜水艦の乗組員のように、各学級でアイデアを出し合い、互いに支え合いながら、装飾や舞台を作り上げました。日々の授業や活動で培ってきた力を水面下で磨き上げ、学校祭という舞台で一気に発揮する姿は、大変頼もしく感じられました。皆さんが積極的に声をかけ合い、協力する姿は学校全体に温かい連帯感を生み、保護者の皆様にもその思いが伝わったことと思います。

準備の過程では、意見が食い違ったり、思うように進まなかったりすることも少なくなかったことでしょう。しかし、それらを乗り越え、ときにはぶつかり合い、ときには互いを思いやりながら一つの形にしていっていった経験は、生徒の皆さんにとって大きな財産になったことと思います。大海原を進む潜水艦のように、生徒たちは、まだ外からは見えにくい部分に大きな可能性を秘めています。その可能性が仲間との交流を通して養われ、少しずつ形を現していることを改めて実感いたしました。そうした経験がこれからの学校生活や将来への自信となり、学び続ける力となっていくことを願っております。

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動へのご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。当日は多くの保護者の皆様にもご来場いただき、温かい声援をいただいたことは、生徒たちにとって何よりの励みとなりました。一人一人の頑張りを認め、応援していただいたことに教職員一同、深く感謝申し上げます。これからも生徒たちがサブマリンのように未知の世界に勇気をもって挑み、自らの可能性を切り拓いていけるよう、教職員一同、全力で支援してまいります。

プロジェクト長として学んだこと

3年1組 F・H

今回、僕は初めて学校祭のプロジェクト長を経験しましたが、初めてということもあり、指示が通らない、やるべきことがはっきりしていないなど課題が山積みでした。また、自分自身も初めてのことが多く、何をすべきかがわかっておらず先生に頼ってばかりでした。

そんな中、僕が何とか頑張って作った予定表をきっかけにみんなが動いてくれるようになり、気付けば自分たちで積極的に準備も練習もするようになっていました。

そして、その後も様々な困難がありながらも迎えた当日はたくさんの人に楽しんでもらい、結果的に成功と言えるものになったのではないかと思います。

今回の学校祭は紆余曲折あったものの、クラス全員の努力があったからこそ成功したと思います。クラスの皆には感謝でいっぱいです！

後悔のない最後の学校祭

3年4組 T・Y

今年の学校祭は中学校生活で最後の行事となり、自分を含めみんなで最高の作品を作り上げようと協力しました。先生の力をあまり借りずに、クラスメイトだけの力で、作品の内容や役者などを決めて、間違いなく自分の中の学校祭では一番でした。

自分が演じたシャープペンの芯の役はあまり目立つような役で放ったと思いますが、それでも後悔が残ることが無いように、声の大きさや身振り手振りを工夫し、最大限みんなに楽しんでもらえるようにしました。また、ここまで素晴らしい作品にするためにはプロジェクトメンバーだけでなく、クラス全体が一体となって取り組んだことによる成果だと思います。この準備している期間が本当に楽しく、思い出に残る学校祭になりました。

～1年生～(バラエティ部門)

1年5組 O・H

学校祭では、5組のみんなが観客を笑わせよう、楽しませようとしていて活動していたのが楽しかったです。練習中は本番への意識が低くてあまり真剣に練習できないこともありましたが、本番では練習中にできなかったことでも無事にできたり、周りも静かにしようとする意識が高まったためとても良い結果となり、達成感が大きく感じられました。今後は積極的に行動する力を生かしていき、周りのことも考えて見通しをもって行動することを意識していきたいと感じました。

～2年生～(装飾部門)

2年5組 S・R

階段装飾を担当することになった五組では、プロジェクトメンバーを中心にサメ・タコ・人魚・サンゴ・鳥・潜水艦などに分かれて作品を作り始めました。初めのうちは、ペットボトルを切ったり、小さな紙を繋ぎ合わせたりと地道な作業が多く完成した姿が全く想像できませんでした。そこから約一カ月かけてほとんどのパーツが作り終わり、いざ階段に全ての装飾がついた時、私は思わず「わあすごい」と声が出てしまいました。階段を登る前の壁ではタコが八本の足で迎えてくれてこの足の一本一本に沢山の時間をかけていたタコチームの人の顔が頭に浮かびました。登ってすぐには大きなサメの口、そして潜水艦、作品一つ、パーツひとつを見てもクラスの人達の努力していた姿が鮮明に思い出されます。そんな沢山の努力の結晶が集まった階段は、三百六十度どこを見ても感慨深いものがありました。題「UNDER THE SEA」にぴったりの作品を作り上げられて大成功に終わった学校祭装飾でした。

試してみよう！コーチング(連載3…傾聴2) 心理的安全性の確保

日本メンターコーチ協会認定メンターコーチ 上田昌史



コミュニケーションをとる時に、ただの雑談ではなく(でも雑談に見えたほうがよいかも!)コーチング効果を生むには、相手の気持ちに安心感があると最高です。

例「この人になら何でも話せるなあ」状態

- もちろん、信頼しあえる仲なら◎ですが、実は初対面でも
コーチングは可能です。そのコツの一つは、連載1の2つの原則
- ・見えているのは相手の一部→氷山の一角のイメージ
 - ・答えは相手の中に、きっとある!



90°位置で会話©mana2025

を念頭に接するのがお勧めです。(知人ならば、普段から)

傾聴を中心としたコーチングコミュニケーションでは、場所や互いの位置関係も大切です。ですから、できれば場所は相手が決めたほうがよいです。※A

それが出来ないときや、日々のさりげない工夫ですが、たとえば校内の廊下で「雑談!？」する場合も、コーチ側が壁側だと、相手は他者が視界に入りにくいです。

さらに、椅子に座るときも含め、緊張感が出やすい正面ではなく90°や120°などの位置で話すなどのあなたの工夫が、心理的安全性の確保に有効で、効果を向上させます。

このあたりなら、**すぐに実践できますね!** これらを意識しやってみる、という一歩を踏み出したとき、もうあなたは素敵なコーチです。

※A 答えは相手の中にあります。だれもいない個室が必ずしも○とは限りません。適度な話声に包まれているカフェの片隅かも、公園のベンチかもしれません。ちなみに筆者は、ミ○ドの隅のほうの席ですね。え、どうしてかって?だって、飲み物、おか○りできますし!

本校学校だよりにて毎号「試してみよう!コーチング」を執筆していただいている上田昌史コーチを講師にお招きし、保護者向け研修会を開催いたします。

【青少年健全育成推進会 研修会】

●日時:11月17日(月)15:00~16:30 ※当日は、学校公開日(2・3・5校時)です。

●場所:本校体育館

●対象:栄中学校区保護者の皆様

どうぞお気軽にご参加ください。

(参加申込など詳しくは、14日にすぐーるで配付しております案内チラシをご確認ください)